

# 野々市市は広報下手で アダプトプログラムの認知度が低い

## \*問題点\*

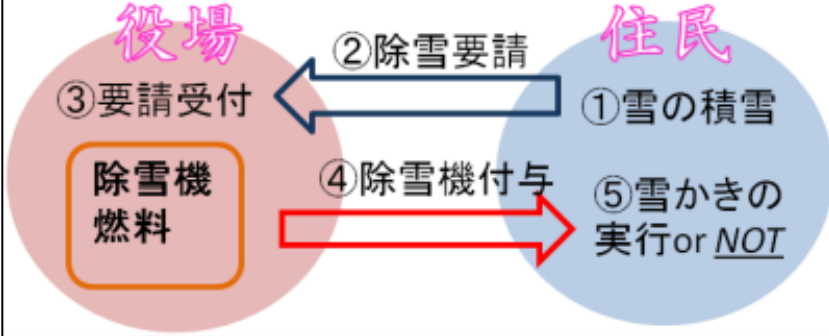
集団による除雪対策の「アダプトプログラム」認知度が低く、また利用に抵抗がある



アンケート結果より、

- ① 住民が除雪で困っている
- ② しかしアダプトプログラムの認知度が少ない
- ③ 市のPR不足

## 欠点残存の理由



## 前提条件と現状値

アダプトプログラムに費やせる野々市市の予算  
→5万(燃料費)要求があれば対応

広告活動ができる人数  
→1人(最大3人) 除雪機を運ぶ作業は除く

除雪機の数  
→11台(増やす予定なし)

## 解決策の達成条件

主要な特性値	現状値	達成条件値
市民の認知度	5%未満	20~30%
プログラムの利用者数	6団体 42名	18団体



# 野々市市を、 雪で遊ぶ街へ!

## イベントを通じて、町内で...

- 町内の雪かきのやり方を話し合い、決める
- 手段として、アダプトプログラムや機材購入の検討

自発的に、協力して雪かき。  
その、きっかけをつくる。

これが最たる目的であり、私たちのやるべきこと!!

- ① あそびを通じて、自主的な雪かきへの動機づけに
- ② 町内で雪かきについて真剣に考える機会をつくる

金沢工業大学  
2011年度 プロジェクトデザインII

プロジェクトテーマ : アダプトプログラム認知度向上  
クラス番号 : 2IS1  
チーム番号 : IS305-3  
チーム名 : マルモリマサ  
チームメンバー名 : 大塚啓介、片山匠、  
篠倉克真、田邊広樹、  
宮田圭輔、森正英也、渡邊有  
担当教員名 : 松本重男